

令和2年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立庄内農業高等学校

学校教育目標	1 知性と感性を磨き、健康な身体と健全な精神を身につけた自立した人間を育てる。 2 自主性と創造性を培い、自己探求と自己実現に向けた実践力のある人間を育てる。
めざす生徒像	3 「農」の学習をとおして「いのち」と環境の大切さを学び、心豊かな人間を育てる。 4 地域社会との「かかわり」をとおして、社会の発展に貢献できる人間を育てる。
具体的目標 重点目標	1 学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成 2 豊かな感性と表現活動の充実推進と部活動の活性化 3 社会性を育む生徒指導と安全指導の充実・徹底 4 特色ある学校づくりの推進と地域連携の強化 5 適正で効率的な学校運営

	A 達成
達成度	B 概ね達成
	C やや不十分
	D 不十分

自己評価				学校関係者評価	
番号	評価目標	具体的方策と指標・基準等	達成度	成果(○)と課題(●)、次年度に向けた改善策(☆)	意見・要望・評価等
1	指導法・指導内容の改善充実 に努め、学 力の定着を図る	授業時間の確保のもと、わかる授業の推進、全学年での「朝学習」実施により基礎学力の向上と定着を図る。	C	○生徒の適性・能力に応じ授業を展開した。今後も個別指導の必要な生徒に対してT等で支援していく。朝学習では生徒の気持ちや落ち着かせて授業に入る雰囲気を作っている。 ●意欲や理解度の生徒差が大きく、基礎学力の定着が十分であるとは言えない。基礎学力向上のための効果的な教材や実施方法、評価方法を検討する。	○休校やコロナ禍により思うように事業ができなかった中、成果を出しており評価できる。次年度も対外的な活躍等期待したい。
		各学年と連携し、学業不振者・出席不良者等への早期の対応を図る。		○学業不振者に対する定期テスト対策を学年団を中心として行った。 ●初期につまずく生徒が少ないので、学習指導を含めた生活全般の指導について、全職員による協力体制を作る必要がある。	☆新型コロナウイルス感染拡大の影響で農業クラブ関係の全国大会が中止になったのは残念であったが、農福連携や花咲かせ隊などの活動を学校のPR活動に生かしてほしい。基本的なことは、庄農への入学生を増やすことが、農業従事者の増加につながるのではないかと。
		3年間を見通した計画に基づき、各学年で「総合的な探究の時間」を効果的に実施し、キャリア教育の充実を図る。 プロジェクト学習の一環の充実と農業クラブ活動の活性化を図り、農業クラブの県大会最優秀、上位大会入賞を目指す。		○総合的な探究の時間はコロナ禍の影響を受けての実施となったが、生徒の進路意識を高めるなどの成果をあげた。 ●さらに各年度で進んで生徒が主体的に取り組める内容を検討する。 ○今年度の農業クラブ活動では、コロナ感染症の影響で全国大会や東北大会が中止となった。県内の大会等でも意見発表や測量、情報処理競技会の中止や各種活動も自粛となり、12月のプロジェクト発表会のみ対策を立てながらの開催となった。本校では3グループ出場し、優秀賞を獲得した。色々な活動自粛や大会が中止となった中、生徒と共に指導教員も少ない大会機会を大切にた成果だと感じる。 ○校内大会では、意見発表・プロジェクト発表・農業鑑定(筆記)を開催し、1・2年生の活躍も見られた。来年度県大会等の開催は検討中であるが、各種大会で活躍できるよう取り組んでいきたい。 ☆課題研究等のプロジェクト学習については、教師と生徒が一体となって、さらに地域と連携しながら、地域農業の課題解決型学習に発展させていきたい。	☆他校では昨年1回、課題研究の成果等のまとめの発表会を荘根タクトを会場として発表している。学校の存在を地域にアピールする方法として効果が大きいと思うので、庄農でも取り組んでいきたい。
2	基本的な生活習慣を確立し、部活動の活性化を図り、元気になる学校を目指す。	学年・学科と連携した定期的な服装髪型指導や全校集会等での指導をとおして、SNSのマナー等を含め、規範意識の向上を図り、問題行動の未然防止に努める。	C	○全校・学年集会や服装髪型指導等を通して、一部守れない生徒はいるが、規律を守り生活する生徒の意識はおおむね高くなっている傾向にある。年度当初の臨時休校により、初期指導がしにくい状況であったが、学年団と協力した指導もあり、問題行動は例年より少なかった。 ●問題行動で指導するケースは例年より減少したが、その中でも1年生が多い状況であった。飲酒、線路内への侵入、自転車窃盗など軽率な行動から問題行動につながるケースはほとんどであり、飲酒、線路への侵入はSNS上自ら投稿し発覚している。 ☆SNSの使用については全校集会や学年集会を通して定期的に呼びかけを行う必要がある。	☆生活面での指導は、引き続き努力していきたい。 ○地域連携事業である庄農うどん大作戦は、生徒による店舗活動を実践するなど充実したものであり、市の存在を地域にアピールする手段となった。さらなる充実に向け引き続き協力したい。
		立哨指導(朝の挨拶運動、夕方の駅指導)、自転車点検、委員会活動、地域との連携等をおとして、登下校のマナー向上と交通事故防止に努める。		○朝の挨拶指導や放課後の駅指導等の効果もあり、藤島駅をはじめ地域からの苦情等も来ることはなかった。また、今年度はコロナ感染拡大防止のためマナーアップ運動は10月の1回しかできなかったが、総務課との連携やPTAの立哨指導、挨拶運動の効果も出ており、交通ルールやマナー、挨拶等への意識は向上している。 ●今年度は登校中に自転車で車から接触される交通事故が2件起きている。2件とも車の不注意による事故ではあるが、巻き込まれる確率を高めないためにも、交通ルールの順守を呼びかけたい。 ☆歩きながら、自転車に乗りながらのスマートフォン、イヤホン等へ注意喚起を行う。	○庄農うどん部の活動が庄農の顔となっている。庄農うどんだけでなく、庄農の顔となり他の活動も行っている。 ☆部活動については、他校との合同練習等で生徒のモチベーションを上げる工夫も必要と思う。
		外部コーチを委嘱するなどして、各部活動の活性化・強化を図るとともに、昨年度の課題等を整理し、円滑な活動ができるよう検討する。 委員会活動の充実と生徒が育つ学校行事(駅伝大会、庄農祭、スポーツ大会等)となるよう指導する。		○運動部・文化部・農業部とそれぞれ特色ある活動を行っている。新型コロナウイルスの影響で各種大会が中止になることも多い中、意欲的に活動する生徒も多かった。農業部の加工班「通称うどん部」では、昨年に引き続き庄農うどん大作戦など有意義な活動が目立った。 ●その反面、普救の活動意欲が下がっている生徒がいるのも現状としてある。全員参加が原則となっているが、未加入者や退部したあと未所属になる生徒が多くいるように感じられる。アンケート等を実施して、新しい部活への加入など、今後の方向性を考えていきたい。 ☆部活動運営委員会を実施し、部員が少い部についての展望や顧問の兼任などについて検討したい。	○コロナの影響により、庄農祭の一般公開が中止となったのは残念であった。庄農祭は、農産物や加工品販売、地域福祉団体と協働制作した巨大絵の展示などがあり、地域の関心の高まりから多くの方が訪れている。庄農祭の開催について、地域内外へのさらなる周知をお願いする。
3	生徒全員の進路希望実現を目指す。	各学年2～3回の個人面談期間、総合的な探究の時間等をおとして進路意識の醸成を図り、キャリアノートを活用し計画的に継続した指導を行う。	B	○休校措置の影響で春の個人面談ができなかったが、全員との個人面談が必要に応じての面談を実施、進路希望調査も計画通り実施できた。1学期に開催予定の進路行事も、秋以降にずれしなくなる限り実施し、学年と連携しながら進路意識を高めることができた。様々な機会に外部団体の協力も得ることができた。 ○生徒一人ひとりがせつめんの機会をどの程度自分の進路に結びつけて考えられたか、十分に把握できなかった。 ☆キャリアノートの再度の見直しと活用。様々な活動によって学んだことや成果、今後の目標等をしっかりと記録させる。 ○「進路だより」の適時発行を行い、情報の発信に努めたが、コロナの影響もあり発行時期が遅れてしまった。 ☆より情報取得に役立つ「進路だより」の内容やスタイルを検討していく必要がある。 ○今年度の各種資格取得指導は、講習会や試験日の中止や延期等が多くあり、チャレンジする機会も例年より少なくなり、資格取得については消極的な傾向が見られた。来年度の日程等を確認し、生徒にできるだけ早く情報を発信するなどして、資格取得への意欲を引き出し、合格率が上がる取り組みを行ってきたい。検定等の結果は下記の通り。 食品衛生責任者(2名) 農業技術検定3級(14名) ワープ検定準2級(4名)・3級(25名) 情報処理技術検定2級(2名)・準2級(2名) アーク溶接(9名) ガス溶接(5名) 危険物内種(1名) ○中長期インターンシップは3学年1名が参加した(コロナの影響で前半のみ)。農業関連校への進学者は2名(農林大学校、園芸系専門学校)。農業関連企業・食品関連企業へも8名ほど就職した。自営(農業)の生徒1名。 ●農林水産部農業経営・担い手支援課とも連携しながら、農業法人就職希望者が増える取り組みをしているが、なかなか増える状況には至っていないのが現状である。 ☆引き続き、農業関連企業に対しての学内企業説明会への参加や、生徒に対しての中長期インターンシップへの参加を呼びかける。	○様々な制約の中で苦勞されている状況が伺える。1月中旬に全員の進路決定がされており充分評価できる。 ●卒業後に農業に従事する生徒が少ないので、就職により結びつく指導をお願いしたい。
		進路指導課と農業課の連携を図り、農業関連機関での研修や自営の進路指導及び農業関連企業の進路開拓に積極的に取り組む。		○今年度には農業体験の受け入れや公開講座、交流等の開催がほとんどできなかった。可能な限りではあったが、地域の小学校へ向向いの植え付け・収穫体験、玉川農場で藤島社会福祉協議会と農福連携事業などを行った。今後の社会情勢と関係するが、来年度以降学校理解を推進するためにも地域交流を一年度以上の機会を設けるよう努めたい。 ●☆農業系への進学者は2名であり、例年より希望生徒が少ない状況であった。次年度は、高等教育への進学についての意識高揚に努め、希望実現を目指す指導に力を入れていきたい。 ●○生徒の高等教育機関との学術連携は不十分であるが、JAや農政課等が主催するGAP等の講習・研修については、取得に向け積極的に取り組んでいる。 ☆課題研究や各科目のプロジェクト学習において、山大学部や農林大学校との連携を深化させていく。	○各学年に応じた計画的な進路指導を行っている。 ○生徒の親として、3年生全員の進路が決定したことに感謝している。
		関係機関との密接な連携のもと、講習会や添削指導を実施し、就職進学ともに、卒業予定者100%の進路先内定率を目指す。		○今年度には農業体験の受け入れや公開講座、交流等の開催がほとんどできなかった。可能な限りではあったが、地域の小学校へ向向いの植え付け・収穫体験、玉川農場で藤島社会福祉協議会と農福連携事業などを行った。今後の社会情勢と関係するが、来年度以降学校理解を推進するためにも地域交流を一年度以上の機会を設けるよう努めたい。 ●☆今年度、春先の野菜苗販売中止や庄農祭一般公開中止等、農産物の提供について地域の方からたくさん相談をいただくなど改めて地域から期待されていると感じた。その期待に応えるため、来年度以降も高品質の安心安全な産物をより多く地域に提供でき、学校のPRができるよう取り組んでいきたい。	○ヒスガ植栽の協力や福祉連携の農園活動、庄農うどんの活躍など地域に認められていると感じる。学校をあげた取り組み等があればさらに評価が上がると思う。
4	農業高校として地域に開かれた学校づくりに努める。	地域(鶴岡市食品庁舎、協議会、JA等)と連携し、地域美化活動や6次産業化を見据え加工食品の商品開発に向け取り組んでいく。	B	○今年度には農業体験の受け入れや公開講座、交流等の開催がほとんどできなかった。可能な限りではあったが、地域の小学校へ向向いの植え付け・収穫体験、玉川農場で藤島社会福祉協議会と農福連携事業などを行った。今後の社会情勢と関係するが、来年度以降学校理解を推進するためにも地域交流を一年度以上の機会を設けるよう努めたい。 ●☆今年度、春先の野菜苗販売中止や庄農祭一般公開中止等、農産物の提供について地域の方からたくさん相談をいただくなど改めて地域から期待されていると感じた。その期待に応えるため、来年度以降も高品質の安心安全な産物をより多く地域に提供でき、学校のPRができるよう取り組んでいきたい。	○山形大学でやっているスマートデロワールと今以上に連携し、地元で生産、地元で消費という教育活動より積極的に実施したらどうか。
		農業大学校や山形大学農学部等高等教育機関・研究機関との連携を推進する。		○今年度は農業体験の受け入れや公開講座、交流等の開催がほとんどできなかった。可能な限りではあったが、地域の小学校へ向向いの植え付け・収穫体験、玉川農場で藤島社会福祉協議会と農福連携事業などを行った。今後の社会情勢と関係するが、来年度以降学校理解を推進するためにも地域交流を一年度以上の機会を設けるよう努めたい。 ●☆今年度、春先の野菜苗販売中止や庄農祭一般公開中止等、農産物の提供について地域の方からたくさん相談をいただくなど改めて地域から期待されていると感じた。その期待に応えるため、来年度以降も高品質の安心安全な産物をより多く地域に提供でき、学校のPRができるよう取り組んでいきたい。	○☆GAP取得の指導員をしているが、素晴らしいワイズセンターでありGAPの審査に通ると思っている。欲を言えば、内部の施設・設備をもっと少し整備できないのか。
		地域(保育園・小中学校)からの農業体験学習の受入や地域の方を対象とした公開講座等を通じて、学校理解を推進する。		○今年度、春先の野菜苗販売中止や庄農祭一般公開中止等、農産物の提供について地域の方からたくさん相談をいただくなど改めて地域から期待されていると感じた。その期待に応えるため、来年度以降も高品質の安心安全な産物をより多く地域に提供でき、学校のPRができるよう取り組んでいきたい。	☆生徒が育てた草花を使って、生徒自身が地域の人を対象とした寄せ植え教室なども実施してほしい。
自己評価		・肯定的評価が75%以上の項目が、生徒では32項目中22項目(昨年32項目中19項目)、保護者では31項目中27項目(昨年31項目中25項目)、教職員では38項目中36項目(昨年38項目中31項目)と生徒・保護者ともに肯定的評価が50%に満たない項目はなし(昨年生徒・保護者1)。 ・生徒・保護者・教職員ともに農業教育に対する評価は概ね高い。特に、「農業学習は子どもの将来にとって役立つ」については保護者の肯定的評価が99.1%であった。 ・教育目標は生徒の実態を踏まえて学校の特色に応じ、「生徒・保護者に対する情報の提供と未然防止に努めている」「地域・保護者との連携」については教職員の肯定的評価が100%であった。 ・プロジェクト学習等の指導に熱心と回答する職員が年々減少傾向にある。課題研究やプロジェクト学習の推進と連携する職員が農林大学校など高等教育機関との学術連携を積極的に導入する必要がある。 ・「自分のPTA活動への参加」の肯定的評価が50%を超え、昨年度まで4年連続で低下傾向にあった保護者のPTA活動への参加意識が多少改善された。			